

ジョージアで召命を受けて 1958

～ 仙台教会の歴史シリーズ その 21 ～

小林孝男

ジョージア州タットナル郡で毎週木曜日に発行されている、「タットナル・ジャーナル」¹という週刊新聞があります。1958年3月20日に発行されたその新聞に、ヴァージニア州リッチモンドで開かれた南部バプテスト連盟外国伝道局の3月月例会議で、ポートルイト牧師（33才）²と妻ベティー（31才）³が、日本への宣教師に任命されたという記事⁴が写真入りで掲載されています。その内容を以下に紹介します。

1. 「ポートルイト牧師夫妻、日本への宣教師に任命」（タットナル・ジャーナル 1958/3/20）

コリンズ・バプテスト教会の C.S. (ボブ) ポートルイト牧師夫妻⁵は、ヴァージニア州リッチモンドで開かれた南部バプテスト連盟外国伝道局の月例会議において、日本への宣教師として本日任命されました。ポートルイト師は1953年9月にコリンズ教会に赴任、その前はケンタッキー州シンティアナ近くの教会の牧師でした。

自分の霊的な成長に関して次のように師は語っています。「小さかった頃の日曜学校の女性教師から影響を大きく受けました。教会学校で先生が教えてくれたことや、教会学校外でその先生が関心を向けていることを通して、私は霊的に物事を考える習慣が身に着いたのです」。

師は少年の頃にキリストを救い主と信じる信仰告白をし、家の近くのサマータウン・バプテスト教会に所属しました。「人生の早い時期から、神様は私が説教者になることを望んでおられる、とを感じるようになりました」と師は語ります。しかしながら、師が牧師になることを確実に決心したのは1948年のことでした。

「宣教師として働いている友人が、1957年に書いた記事を読み触発されました」と外国伝道局に対して語るポートルイト師は、「この記事によって、神様は宣教の働きへ私を招いておられるということを、はっきりと認識させられました」「以前は、宣教の働きに出かけていく人たちは気の毒だ感じていましたが、今は、その働きに出かけていけない人たちは気の毒だ感じています」と付け加えます。

エマヌエル郡で生まれたポートルイト師は、ティフトンのアブラハム・バードウィン農芸大学に通い、またダロゲナの北ジョージア大学で科学の学士号を取得。神学の修士号は、ケンタッキー州ルイスヴィルにある南部バプテスト神学校から授与

されました。

師はアトランタの自動車会社の経費分析専門家助手や、スワインズボロでの農業調整庁の農地調査員の働きを経験し、また米国空軍で 3 年以上任務に就いています。

ベティ・フェイス・ボートライト夫人は、マーコンの生まれで旧姓はウィリアムズ、現在ホワイト・プレインズで牧師をしている S.S.ウィリアム牧師夫妻の娘です。自分の人生はクリスチャンの両親から決定的に影響を受けました、と彼女は語っています。11 才でキリストを救い主と信じる信仰告白をして、近くのコーマのバプテスト教会の会員になりました。

彼女は外国伝道局に対して次のように語っています。「大学で親友だった者たちの多くは、ミッション・ボランティアになりました。また、大学の聖書の教授の励ましや影響力は、私にとって大いに意味のあるものでした。若い時期には、私はキリスト教事業に全ての時間と生活を献げ、自分の人生の中で神の御心が実現することを求めました」。

ボートライト夫人はフォーシスのティフト大学で人文科学の学士号を取得し、ルイスヴィルの女性宣教師連合訓練学校（現在の「宣教・社会事業カーサー学校」）で宗教教育の修士を取得。職歴はブフォード・バプテスト教会の教育主事、ローレンスヴィル・バプテスト教会の音楽主事と活動推進主事、そしてニュートン郡カビングトン近くの中学校で教師も務めました。

ボートライト夫妻には、もうすぐ 5 歳になるメアリー・リンダ、そして 2 歳半のダビデ・ウェインの二人の子供がいます。

夫妻は外国伝道局の 3 月定例会議で外国での働きのために任命された 8 名の青年の中に含まれており、南部バプテスト連盟の現役の外国宣教師の人数は、これで 1,188 名になります。

2. 日本地図を指差した先が仙台

1958 年に来日したお二人は 2 年間東京で日本語の学習に励み、1960 年 6 月に来仙します⁶。そして歴代の仙台教会の牧師たち（大沼上、天野五郎、金子純雄）と良き人間関係と協力関係を築きながら、仙台で、吉岡で、南光台で、長命ヶ丘で、郡山で、盛岡や山形で福音を宣べ伝える働きに専念されました。それぞれの地においてたくさんの人たちと出会うわけですが、ボブ・ボートライト宣教師の持ち前の人懐

こさや明るさは、知らない人に対して私たちが作ってしまいがちな心の壁を優しく壊してしまいましたし、夫人のベティー・ボートライト宣教師は、日本人以上に日本人的な慎ましやかな物腰や話し方で、周囲に安心感と親近感を与えました。

お二人はどうして仙台を任地として選んだのでしょうか？ はじめ宣教団からは韓国または香港を勧められたようです。それに対してボートライト先生は日本を希望しました。これから世界にもアジアの近隣の国々にも大きな影響を与える国になるはずの日本だからこそ、福音が浸透した国にならなければならないと考えたのでしょう。そしてご自分の事務室に貼ってあった日本地図がけて、「ココダ、ココニイキタイ！」と指差した個所が仙台だったのです⁷。「たまたまだった」と冷静に言うこともできますし、「御旨が示された」と確信を持って言うこともできるでしょう。いずれにしても、神様がなさることは不思議ですし、時に適って美しいのです。

¹ The Tattnell Journal は 1879 年創刊。毎週木曜日に発行

² 1924 年 8 月 10 日 ジョージア州スワインズボロに生まれる

³ 1926 年 4 月 22 日 ジョージア州メイコンに生まれる

⁴ 資料(1958/03/20_ボートライト夫妻日本への宣教師に任命_TattnellJournal)

⁵ Claude Sawyer Boatwright、誕生 1924 年 8 月 10 日、召天 2016 年 11 月 15 日

Betty Face Williams Boatwright、誕生 1926 年 4 月 22 日、召天 2015 年 8 月 14 日

⁶ 資料(1989/08/00_福音のために_ボートライト夫妻の日本宣教 31 年・抜粋)24 頁

⁷ 同上 25 頁